

1. 参考事例と提案について

陶磁器食器を提案するにあたり、最も一般的であり多くの人が使用しているコーヒーカップのUDを取り上げて、検討していきたいと思います。

前回のレポートで、動態デザインについて考察しましたが、何故コーヒーカップは、静態デザイン（機能性よりも静止プロポーションを念頭においてデザインされる）が一般的なのでしょう。これに限らず食器全般にも当てはまると思います。

つまり、多くの人は機能性よりも形状的安定感（バランスの良いデザイン）を望んでいるという事だと思います。勿論、その材質の加工性（円形・シンメトリー）も影響していますが、不安定な形状は、たとえ機能性に富んだものでも精神的に落ち着かない雰囲気を醸し出すのではないかと思います。

機能性を迫及すると奇抜なデザインにもなり得ます。しかし、それは多くの人にはベターではないという事です。ここにUD製品のポジショニングの難しさがあると思いますが、機能を特化するとそれは福祉製品の分野にもなります。但し多くの人には使用しにくいという、UD精神から外れるという矛盾も生じて来ます。

（福祉製品のUDは意匠より機能性に重点を置く事が、より大切であると思います。）

UDの7原則は必要ですが、しかし余りに多くのニーズをひとつの製品に求めてしまうと、必ずデザインに無理が来ると思います。

要はその原則をデザイナーがどのように活用していくかという事であり、全ての人に満足させるデザイン+機能は物理的に難しい事であるということです。また、UD製品は福祉製品だけではなく、一般的に使用する日常製品もUDの対象であるということです。意見の分かれるところかも知れませんが、機能よりも美しさに重きを置いた食器も、使う人にとっては精神的に癒されるモノであれば、これもひとつの精神的UDであるということであり、製品を開発していく上での目的とコンセプトを明確にしておかないと、その方向性と判断が難しいところだと思います。

UDの本質は機能性にあると思いますが、大切なことは消費者が欲しいと感じる魅力的なデザイン（欲しいと感じさせるモノ）に昇華させる事にあると思います。それがなければ商品としての価値がありません。

コーヒーカップに限っていえば、例えば大きな取っ手はひとつの回答であると思いますが、これに捉われ過ぎると、どうしても奇抜なデザインになってしまいます。この機能性をいかに美しくデザインしていくかにより、その商品としての価値が上がると思います。

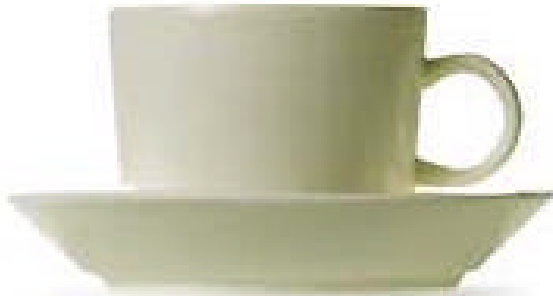
どの部分にUD製品としての焦点を定めるか、以下に簡単な事例を提示し、検討していきたいと思います。

参考事例

（注：以下各画像は参考資料として、UD等関連ホームページより抜粋したものです。）

A. Coffee Cup

○シンプルなデザインの一般的なコーヒーカップ事例



Teema : Design カイ フランク
(フィンランド)



Coffee Cup : Design 柳 宗理

抑えのある完成されたシンプルなデザイン故に、新鮮さを失わないコーヒーカップ。

B. UD Coffee Cup

○扱い易さとデザイン性、シンプル性のある様々なコーヒーカップ類事例



Ego : Desgin ステファン リンドフォース (フィンランド) : アラビア社

機能性と優美さが融合するデザイン。



ファンシーカップ : Desgin 森 正洋 (日 本)

シンプルでありながら、握り易さと形態的美しさが調和している事例。価格も 1500 円程度と安い。
また、カップに限らず使い方の応用範囲が広い。



COFFEE CUP CUPPLE : Desgin Propaganda (ブランド名) (タ イ) PRPAGANDIST社

取っ手デザインのアイデアがユニークでありながら、バランスを崩していない。



MOCCA nazo: Desgin Kazuhiko Tomita (日本): COVO社 (イタリア)

多くの人が使い易いと感じさせるシンプルなデザイン。このように一歩手前で抑制のあるデザインは、使用する側がその白紙の部分に創造力を与え続け、飽きのこないモノ（サスティナブルデザイン）となり得るのでは。

左下：UD製品ではなく、一般的な北欧製品の一例。

右下：卵をモチーフにした愛嬌のあるUD食器シリーズ。



spin: Desgin Marie-Louise Hellgren

デザインハウス・ストックホルム社（スカンジナビア）

シンプルな形態で、持ち心地よさそうなカップデザイン。

ソーサーのらせんデザインは持ち手の機能を持つ他、クッキーなどの皿機能、カップに被せると蓋にもなります。

UDではないが、使い易そうなカップの一例。

ルッフ (l'oeuf 仏語 卵の意味)

四日市萬古焼（三重県） UD食器シリーズ

取っ手位置がカップより上にあり、重心が下に

来た時に手首に力がかかり（モーメント力）

持ちにくいのではと気になります。

他の食器は親しみのあるデザインです。

日本各地の窯元では現在、各々研究会や公的研究機関の協力を得て、UD製品を開発しています。以下一部事例。



あいゆう（UD食器ゆう花シリーズ）：アイトー社（日本）
花びらをモチーフ・飲み易い飲み口



三川内焼の窯元6社の研究グループ「みかわうち21」製品
カップの取っ手が斜めになっている動態デザイン（長崎県）

○よりUDとしての機能を高めたカップ類事例



ストロー付マグカップ：笠間焼 袖工房（茨城県）
「笠間焼商品開発研究会」

ストローの使用に特化したデザイン。普通の使用にはスプーンがかき混ぜにくく、実は飲みにくいと思う。
ある人にとっては良くとも、逆の立場もあり得る、使用者を選ぶデザイン。（UDの在り方の課題でもあると感じます。）



丹波UD：丹波立杭焼（兵庫県）
「立杭焼ユニバーサルデザイン委員会」



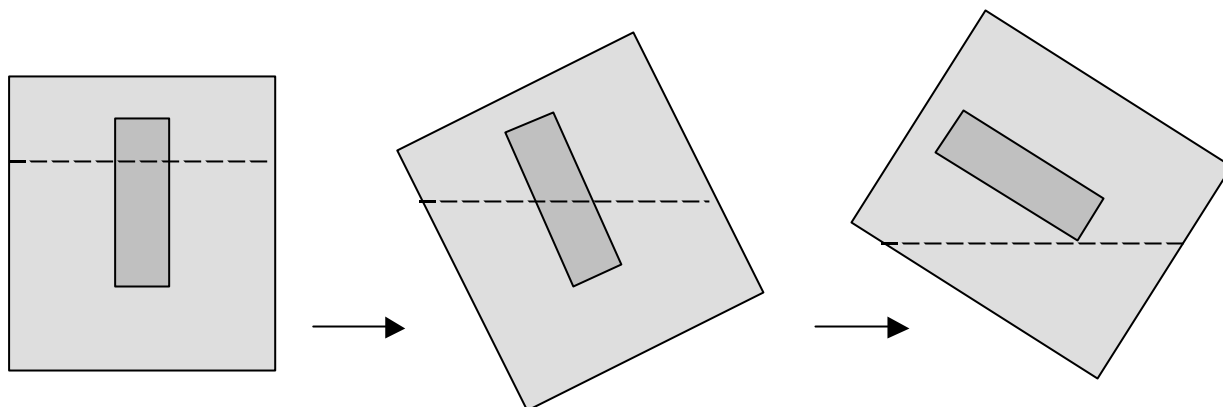
丹波UD：丹波立杭焼 カネト窯（兵庫県）
「立杭焼ユニバーサルデザイン委員会」
4本の指が楽に入る大きな取っ手



マグカップ：アトリエ トムテ（障害者福祉施設）（北海道）
側面模様は柚葉を施していない為、滑り止めになる。
本体から離れた大きな取っ手で熱を防止する。

2. UD Coffee Cup (提 案)

コーヒーカップの取っ手（灰色部分）機能に焦点を絞り、以下に提案していきます。



側 面 図（一般的なコーヒーカップ） 角度変化の状態

現状の取っ手の課題: a. 一般的にカップと平行に取り付けられている為、飲む角度を変化させると持手、手首に負担がかかる。
b. カップに満杯の状態から空になるにつれて重心が下部に移動するため、持ち手が不安定になり易い。
c. カップの中身を飲み干す場合、その角度から手首、腕に負担がかかり、カップ縁が顔に当たる。

基本コンセプト: 取っ手を動態デザインに対応するシンプルな形状にし、重心に合わせて握り手を可変させることで自由度を大きくし、手首の安定感を増大させ、負担を軽減させる。

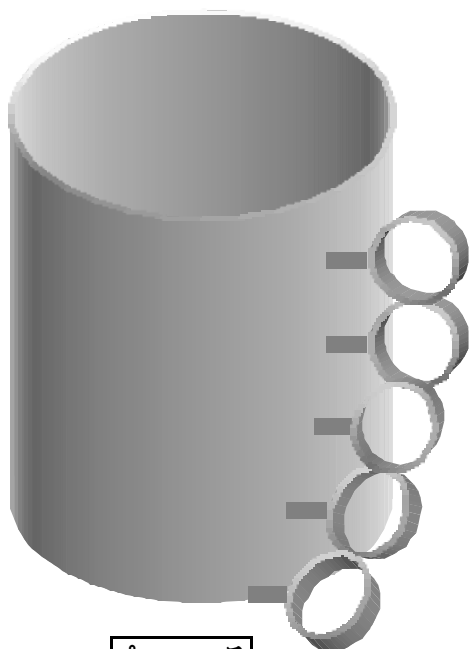
対 象 者 : 一般の幅広い消費者を対象とし、より多くの人に使用して頂く製品とする。

提案に対する課題: 下記原案では右手か左手に持ち手が限定されるため、どちらでも使用可能なデザイン検討が必要である。

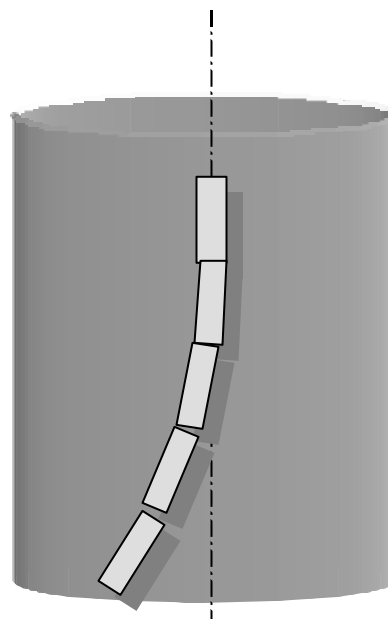
Plan-1

注) グラフィックはMS Wordソフト 簡易図形描画機能を使用しており、微妙な表現は行なっていません。

Ring form griphand.



パ ー ス



側 面 図

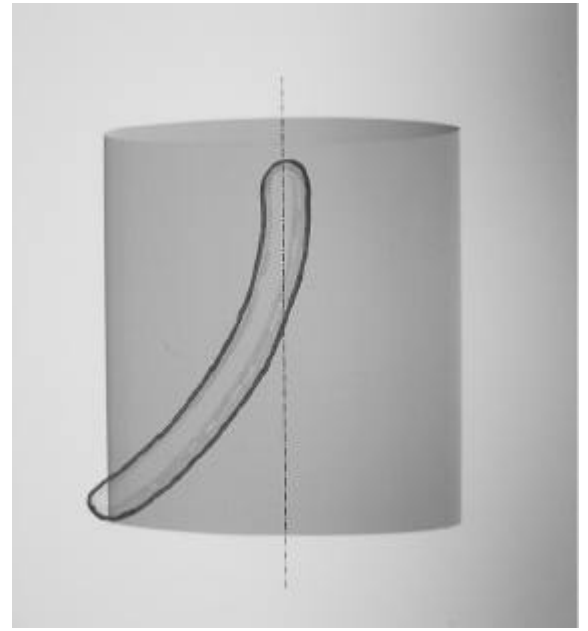
Desgin Concept: コーヒーカップ本体はシンプルな円柱形とし、加工性を容易とする。取っ手部は小円形リングの組み合わせとし、上部2ヶ所はカップと平行、下部3ヶ所は斜めに取り付け、カップの重心移動および傾きに合わせて指をかける位置を変化させる。(絵は持ち手が右手用)

Plan-2

Spiral form griphand.



パース

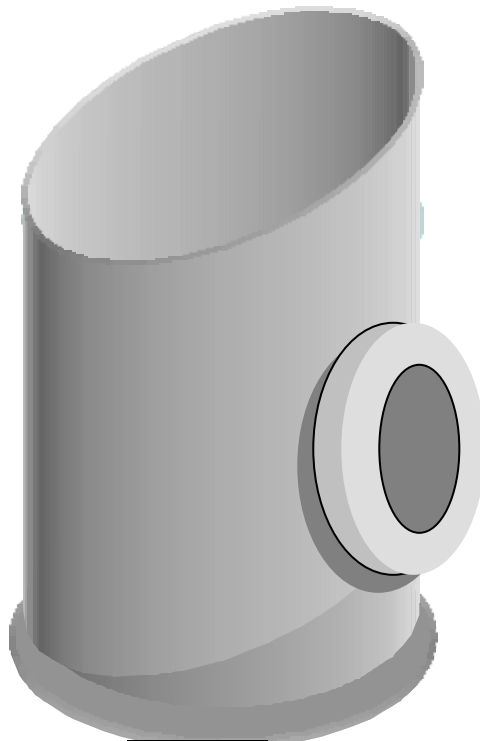


側面図

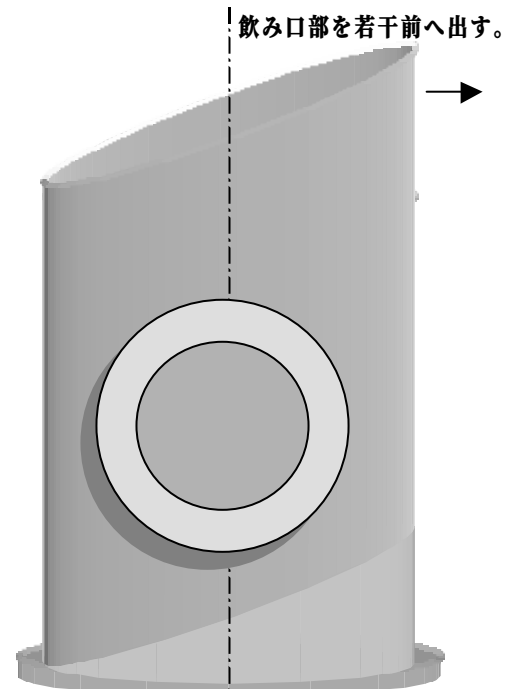
Design Concept: 1案と同じく、本体はシンプルな円柱形とし、取っ手部はらせんをイメージする形状とする。上部はカップと平行にし、下部に行くに従い徐々に斜めの形状とし、カップの重心移動および傾きに合わせて、指をかける位置の自由度を増大させる。(絵は持ち手が右手用)

Plan-3

Slanting edge & ring form griphand.



パース



側面図

Design Concept: カップ本体は円柱形を基本に、上部縁を斜めにカットした造型とし、また飲み口部を出させて飲み易くする。また、この溝にストローがはまることで動きにくい機能を持たせる。本体底は、カップを安定させるため、本体より少し大きくする。取っ手はリング(ハンドル状)形状とし、持ち方を特に限定させない自由な持ち手機能とする。(絵は持ち手が左手用)